

た。
(各所)

(* 1 三菱水島病院
* 2 ライデン大学医史学)

医師トーマスB・ダンの経歴

泉 彪之助

一九三六年五月三十一日、中国の文豪魯迅は、上海市虹口区の自宅で、アメリカ人医師トーマス・B・ダン (Thomas Balfour Dunn) の診察を受けた。この診察は、魯迅が作品「死」を執筆する契機になった点で重要な事件であったのかかわらず、このアメリカ人医師トーマス・B・ダンについてほとんど何も知られていなかった。

演者は、アメリカ医師会をはじめ関係者の好意により、トーマス・B・ダンの経歴をかかなりの程度にまで明らかにすることが出来たので、まだ調査は続行中であるが、現在までに判明したところを報告したい。

トーマス・B・ダンは、一八八六年五月五日、アメリカ合衆国カリフォルニア州ベンチュラに生まれた。父は、ロバート・ブロディー・ダン、母はマーガレット・マッケイで、両親ともスコットランド出身であった。

トーマス・B・ダンは、一九〇六年カリフォルニア州サ
ンタ・クルスで高校を卒業。カリフォルニア大学に入り、
一九一三年B.S.の称号を得、一九一六年同大学医学部を卒
業した。一九一七年六月母校附属病院でインターンを終
了。合衆国海軍軍医となり、主としてアジア地域に勤務。
シベリアに対する軍事干渉（日本でいうシベリア出兵）の期間
中には、約一年間軍艦ブルックリンに乗艦のまま、ウラジ
オストックに勤務した。

一九二〇年十一月合衆国海軍を退官、民間人として上海
に就職し、以後一九四一年まで診療に従事した。上海にお
ける経歴は、まだ十分調査が進んでいないが、ゼネラル・
ホスピタル（中国名 公濟病院）およびカントリー・ホスピ
タル（中国名 未詳）理事、上海医学会会長などの経歴が
判明している。蒋介石を診察したこともあるという。一九
四一年太平洋戦争の勃発後、日本軍によって抑留され、第
二次日米交換船に乗船、一九四三年に帰国した。
帰国後は、カリフォルニア州バークリーに住み、同州オ
ークランド、フランクリン通りに開業、一方カリフォルニ
ア大学医学部熱帯医学講師を務め、またオークランドのペ

ラルタ、プロビデンス、サムエル・メリットの各病院、バ
ークリーのアルタ・ベイツ病院にも勤務した。

一九四八年十二月二十八日、旅行中にカリフォルニア州
フレズノで脳出血を発病、同市コンミュニティー病院にお
いて死去した。享年六十二であった。

内科医としてのダンは、内科専門医の認定を受け、アメ
リカ内科医学会、王立熱帯医学協会会員、アメリカ熱帯
医学会会員などの諸資格を有し、またウエスト・コースト
生命保険会社の中国地区主任審査医を長く務めた。従来、
トーマス・B・ダンは、呼吸器専門医といわれていたが、
経歴からは熱帯医学専門家としての色彩が強い。

トーマス・B・ダンは、一九二二、二三年ごろ、シベリ
ア生まれのドロシーと結婚、二人の間に四人の令嬢があっ
た。一九八五年十月現在、まだ家族との連絡に成功してい
ない。

ダン医師が、魯迅に告げたという有名な言葉、「（魯迅が）
西洋人だったら、（病気が重いため）五年前に死んでいただ
ろう」という表現は、従来種々の論議を引き起こしたが、
前記の診察についての記載を詳細に検討すると、この言葉

は、魯迅に直接に伝えられたものではないと思われる。診察の状況から見て、トーマス・B・ダンは医師として十分に慎重であったと考えられる。

経歴について、まだ十分裏付け調査が出来ていない点があり、たとえば、トーマス・B・ダンの出生記録は、ベンチューラ郡役所にも、カリフォルニア州厚生部統計局にも見出されなかった。またサンタ・クルス高校の卒業生名簿に名前が見出せなかった。

これらの点を含め、今後、上海・カリフォルニアの現地調査を行うと共に、さらに検討を続ける予定である。

(福井県立短期大学第一看護学科)

『多聞院日記』に現われる風病の

検討

中村 昭

『多聞院日記』は室町時代末期から安土桃山時代にかけて奈良の一寺院で記録されたものであるが、記録者はある程度の医学知識を持った僧なので、その記述は興味深く、この時代の医療の実態を知る上で参考になる。

演者は前々回及び前回の本学会総会において、この日記に現われる伝染性疾患及び皮膚疾患・化膿性疾患についての検討して報告したが、今回は風病の範疇に入る疾患についての記述を取り上げて考察を加える。

風というのは漢方医学ではやや漠然とした広い概念である。基本經典である黄帝内経素問の風論篇を見ると、次のような黄帝と岐伯の問答がある。

「黄帝問いて曰く、風の人を傷くるや、或は寒熱となり、或は熱中となり、或は寒中となり、或は瘍となり、或は不仁となり、或は癘風となり、或は偏枯となり、或は風とな